

新モデルの機械導入で、 社会ニーズに応える新製品を開発

課題

次世代の基布の 安定生産を目指して

織物業の町・高島市新旭町で地場産業の製織加工を行う中村織布株式会社。昭和34年の創業以来、「綿帆布」といわれる素材でテントやトラックの幌、帆船の帆などの産業用資材の基布を製造してきた。近年、「安心安全」「自然にやさしい」といった社会ニーズに貢献しうる繊維技術の開発が求められるなか、取引先からの要望もあり新たな素材を組み合わせた織物に取り組むため、経営者は、高島市商工会にもものづくり補助金の申請支援を依頼。補助金で新たな設備を導入し、新製品の製造を開始した。それと同時に主力であるテント倉庫用膜材料の基布が指定建築材料に指定されており、法改正により認定基準をクリアできる生産体制の構築が必要となった。そのようななかで、原糸の品質異常トラブルが数回にわたり発生。目的用途へ使用できない基布を多量に製織する問題が起きた。

そこで、「高品質の基布を安定的に生産する体制」に向けて、最新モデルの織機および新しい工場管理システムを導入し、既存の設備とともにネットワーク化を行うことが必要となった。こうした課題解決のため、商工会に設備導入などの計画の作成支援と、経営革新計画の作成支援を依頼した。

また、さらなる安定経営のため、既存分野だけでなく、新たな分野への進出も課題となっていた。過去に取り引きがあったメーカーから「湿式フィルタークロス」への再参入依頼があったことから、ものづくり補助金を活用して設備を導入し、再チャレンジをすることになった。

支援

新設備導入で 生産性向上と販路拡大

既存の設備では製織できない新たな素材との組み合わせであることから、ものづくり補助金を申請し、専用織機を導入。より高度な性能をもつ基布の開発を目指し、試作開発に向けた事業計画の作成支援を行った。また、高品位なテントシート基布の安定生産対策として、商工会は、3カ年計画でものづくり補助金の申請に係る事業計画の作成支援を行い、工場内の織機をLANネットワークでつなぐ新しい工場管理システムの導入に向けた取り組みを開始した。

本システム導入には、工場内の全機種が新織機であること



多くの織機が稼働する同社の工場内

が条件となり、省エネ・汎用性を追求した最新モデル織機を4台導入したことにより、新しい工場管理システムの体制に向けスタートができた。品質トラブルも少なくなったことで生産効率も上がり、10.9%の売り上げ増加となった。

再参入となる商品製造については、商工会の支援のもと、再度ものづくり補助金を申請。採択を受け、設備を発注できたことで、一度撤退した「フィルタークロス部門」への再参入ができた。これにより、取引先が増え、あわせて加工賃売り上げであることからさらなる業績の向上も期待できる。

今後は、さらに新たなマーケットの開拓や大幅な生産性の向上と高品質基布の安定生産を図っていく。

支援の経過

期間	支援内容
H26年6月	ヒアリング、ものづくり補助金の申請支援
H28年3月	中期事業計画の作成支援（設備導入計画）
4月	ヒアリング、経営革新計画の申請支援（6月承認）
H29年2月	ヒアリング、経営力向上計画の申請支援
H30年2月	ヒアリング、ものづくり補助金の申請支援

会社概要

会社名：中村織布株式会社
 住所：滋賀県高島市新旭町藁園1618
 電話番号：0740-25-2322
 URL：
 代表者名：代表取締役 中村り子
 創業年：昭和34年
 年間売上高：2億5365万円（平成29年）
 従業員数：5名
 商工会名・担当者名：高島市商工会・石田久一